

# エビデンスに基づいた処方提案のための 薬の位置づけデータベースの構築

○高嶋理子<sup>1</sup>、柴田里枝子<sup>1</sup>、石川真代<sup>2</sup>、大野逸子<sup>1</sup>、杉平直子<sup>1</sup>

<sup>1</sup>メディカルデータベース株式会社

<sup>2</sup>メディカルデータベース株式会社（現：愛知医科大学病院 薬剤部）

## 【背景・目的】

これまでも薬剤師の役割として、専門的知識を活かした薬物治療の適正化への取り組みが求められてきた。さらに、医師の業務負担軽減のためのタスク・シフト/シェアの推進を背景に、これまで以上に患者背景に応じた最適な処方提案が求められていくと考えられる。今回エビデンスに基づく処方提案を支援するため、診療ガイドライン(以下、GL)をもとに成分毎の治療上の位置づけや、特徴・特質をまとめたデータベースを構築した。

## 【方法】

医療現場で働く薬剤師が日常よく遭遇する疾患として、高血圧・糖尿病・骨粗鬆症・関節リウマチ・炎症性腸疾患の5疾患に使用される**医薬品の治療上の位置づけや同種同効薬との違い、医薬品ごとの特徴・特質を、GLを中心とした各種資料を参考にデータ化**した。

## 【結果】

疾患ごとに、治療効果、合併症や年齢など患者属性をふまえた推奨度、安全性、薬物動態、作用機序などに関する**情報を一覧化し、項目別に成分間で比較することが可能**となった。また、日常よく遭遇する疾患の治療薬としての**位置づけ、特徴、同種同効薬との相違**が一目でわかるようになった。

## 比較項目

GLの中で示された各病態における**推奨度や、効果の強度、併用療法での位置づけ**など成分ごとに比較可能な項目を「比較項目」として設定。**治療における同種同効薬の使い分けに利用可能**

## 位置づけテキスト

比較項目以外の製剤的特徴や、効果判定時期、副作用予防など**比較項目以外の特徴**を成分ごとに設定

骨粗鬆症治療薬	比較項目				
	①骨密度上昇効果	②大腿骨近位部骨折発生抑制効果	③椎体骨折発生抑制効果	④非椎体骨折発生抑制効果	⑤QOLに対する効果
I アレンドロネート	A	A リスクが高い患者の第一選択薬	A	A	有 臥床期間や活動制限日数減少、関節痛・疼痛関連QOLの改善
I リセドロネート	A	A リスクが高い患者の第一選択薬	A	A	有 日常役割機能(身体)、体の痛み、活力、社会生活機能を改善
I エチドロネート	A	C	B	C	
I イバンドロネート	A	C RCTによる抑制効果の報告なし	A	B	有 QOL評価のすべての項目においてQOLの悪化はない、疼痛の改善効果
II エストラジオール	A	C	B	B	
III バゼドキシフェン	A	C	A 椎体骨折抑制効果は経口ビスホスホネートと同等	B	有 身の回りの管理、疼痛/不快感の改善
IV イプリフラボン	C	C	C	C	
V デノスマブ	A	A アレンドロネート、リセドロネートと同様	A	A	有 健康関連QOL改善効果、質調整生存年数(QALY)の増加が最大
VI アルファカルシドール	B	C	B	B	有 転倒抑制効果 身体機能と痛みの改善効果
VII テリパラチド酢酸塩	A	C	A 最強(GL作成時)	C 臨床研究実施中	有 腰痛、ADLを含むQOL指標の有意な改善

I:ビスホスホネート製剤  
II:卵巣ホルモン製剤  
III:選択的エストロゲン受容体モジュレーター  
IV:インフラボン誘導体  
V:ヒト型抗RANKLモノクローナル抗体製剤

VI:ビタミンD3製剤  
VII:副甲状腺ホルモン製剤

①  
A:上昇効果がある  
B:上昇するとの報告がある  
C:上昇するとの報告はない

②③④  
A:抑制する  
B:抑制するとの報告がある  
C:抑制するとの報告はない

## 位置づけテキスト (例：リセドロネート)

作用の強弱 第一世代と比べ、第二、第三世代は1000～1万倍骨吸収抑制能力が高い。  
作用の強弱 第三世代はP-C-P骨格の側鎖に窒素を含み環状構造を有する。骨密度上昇効果は窒素含有ビスホスホネートが大きい。  
投与方法 連日、週1回、月1回投与の3製剤がある。

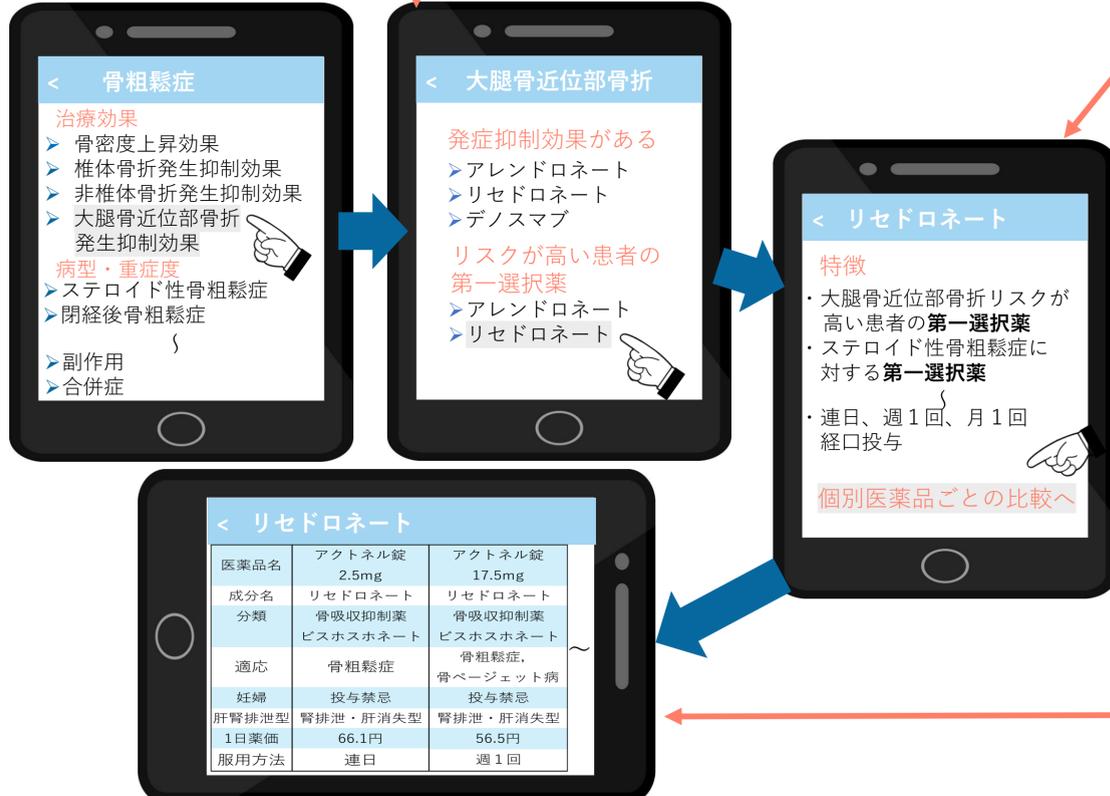
## POINT

成分ごとに特筆すべきポイントを「比較項目」や「位置づけテキスト」から抜き出し、端的にまとめた。**医薬品の特徴や、治療薬としての位置づけ、同種同効薬での相違が一目で確認できる**

## POINT (例：リセドロネート)

位置づけ 大腿骨近位部骨折リスクが高い患者の第一選択薬  
ステロイド性骨粗鬆症に対する第一選択薬  
骨吸収抑制薬の中での新規骨折抑制効果はデノスマブ>イバンドロネート>アレンドロネート/リセドロネート  
ビスホスホネート薬ではアレンドロネート、リセドロネートのみ非椎体骨折、大腿骨近位部骨折の抑制効果が証明されている  
特徴 連日、週1回、月1回経口投与

## 活用例



## 個別医薬品項目

薬効分類や、妊婦・授乳婦、適応、薬物動態、1日薬価などの情報を**医薬品ごと**に参照可能

	個別医薬品項目	
	アクトネル錠2.5mg	アクトネル錠17.5mg
成分名	リセドロネート	リセドロネート
分類	骨吸収抑制薬 ビスホスホネート製剤	骨吸収抑制薬 ビスホスホネート製剤
適応	骨粗鬆症	骨粗鬆症, 骨ペーজেット病
妊婦	投与禁忌	投与禁忌
肝腎排泄型	腎排泄・肝消失型	腎排泄・肝消失型
1日薬価	66.1円	56.5円
服用方法	連日	週1回

第32回日本医療薬学会年会  
COI開示  
筆頭発表演者:高嶋理子

私が発表する今回の演題について開示すべきCOIはありません。



メディカルデータベース株式会社  
医薬情報開発部 開発グループ 高嶋理子  
E-MAIL r-takashima@medicaldb.co.jp

## 【まとめ・考察】

本データベースにより、GLで推奨される医薬品やその特徴が一目でわかり、同種同効薬との比較が容易になったことで、患者背景に応じた処方提案支援や、フォーミュラー策定の参考となると考えられる。今後は、対象疾患の拡充と、GLの改訂に則した情報のメンテナンスを随時行い、適切な情報の提供により質・安全性の高い薬物治療への貢献を目指していきたい。